四方山通信

月報　2019 年　3 月 31 日　№338

3 月号

石城山岳会事務局編集

山スキー小野岳（1383.4m）

2019 年３月３日　　秋葉信夫、渡辺敏夫

昨年は２月 27 日同じコースを登っている。雪もたっぷりあり良いコースなので広めていきたいが、下部のコース取りが大変だったので、もっと良いコース取りをしたいと出かけた。

前日は念願であった旭岳に登り、大内ダムサイトでテント泊。大内宿に移動し出発。大内宿が約 600m なので約 800m の標高差である。

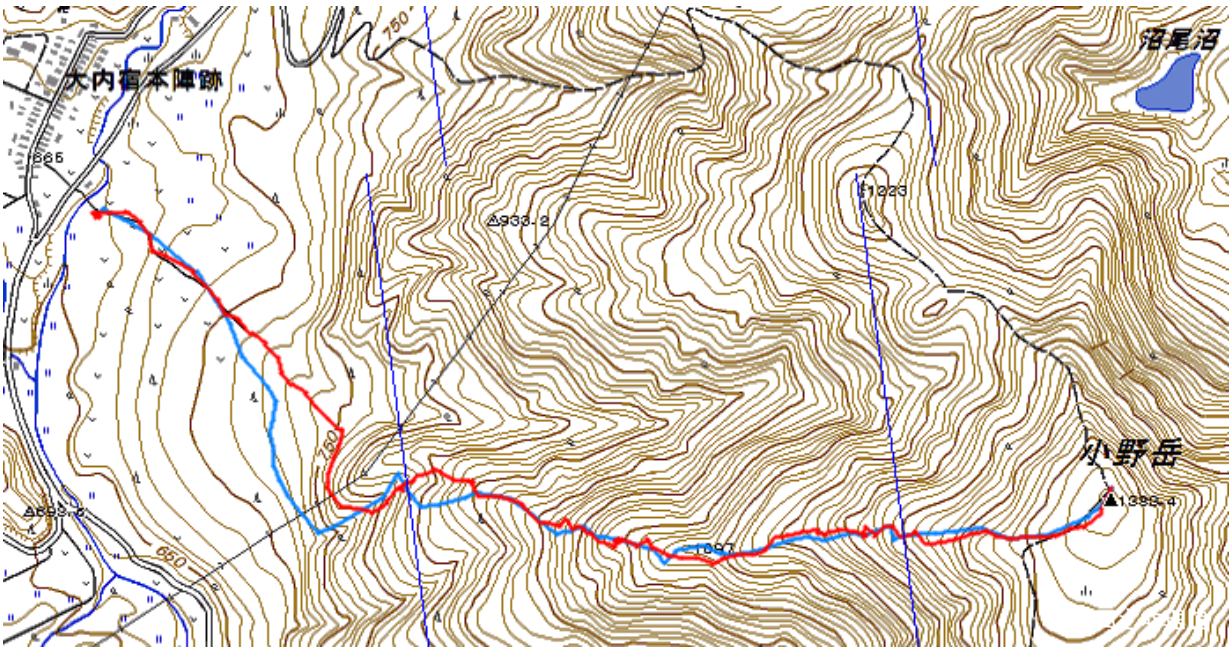
前回は鉄塔に直登したが苦労したので鉄塔を大きく巻くことにする。クラストしておりトラバースなのでスキーアイゼンを履く。でも雪が少なく灌木に苦労する。

急斜面もあり、前回はアイゼンを使わず苦労したが、今回はそれよりは楽。アイゼン様々である。その後も雪が続いておらず、２回スキーを担いで登る。スキー靴で急斜面を登るのは中々大変、途中で嫌になり辞めようとも思うが、上には素敵な斜面が待っていることを想像して我慢する。

頂上には夏道を登って来た方が一人、シャッターを押してもらう。例年なら隠れている祠が姿を見せていた。

いよいよ滑降、1200m 付近まではブナの大斜面を快適に滑る。尾根に入ると、雪のある所を選んで慎重に滑る。雪が無くて担いで登ったところも何とかトラバースして滑ることができた。雪の残っている沢に滑り込む。少し登り返しがあるが。出発点まで約 1 時間で戻ることができました。

今年はどこでも例年になく雪が少なく、山行を計画するときには注意が必要だ。今回のコースも同様で雪の多い時に、快適な滑りを楽しみたい。



登り　大内宿 7:00→鉄塔上部 8:00→頂上 10:50

下り　頂上 11:10→大内宿 12:10

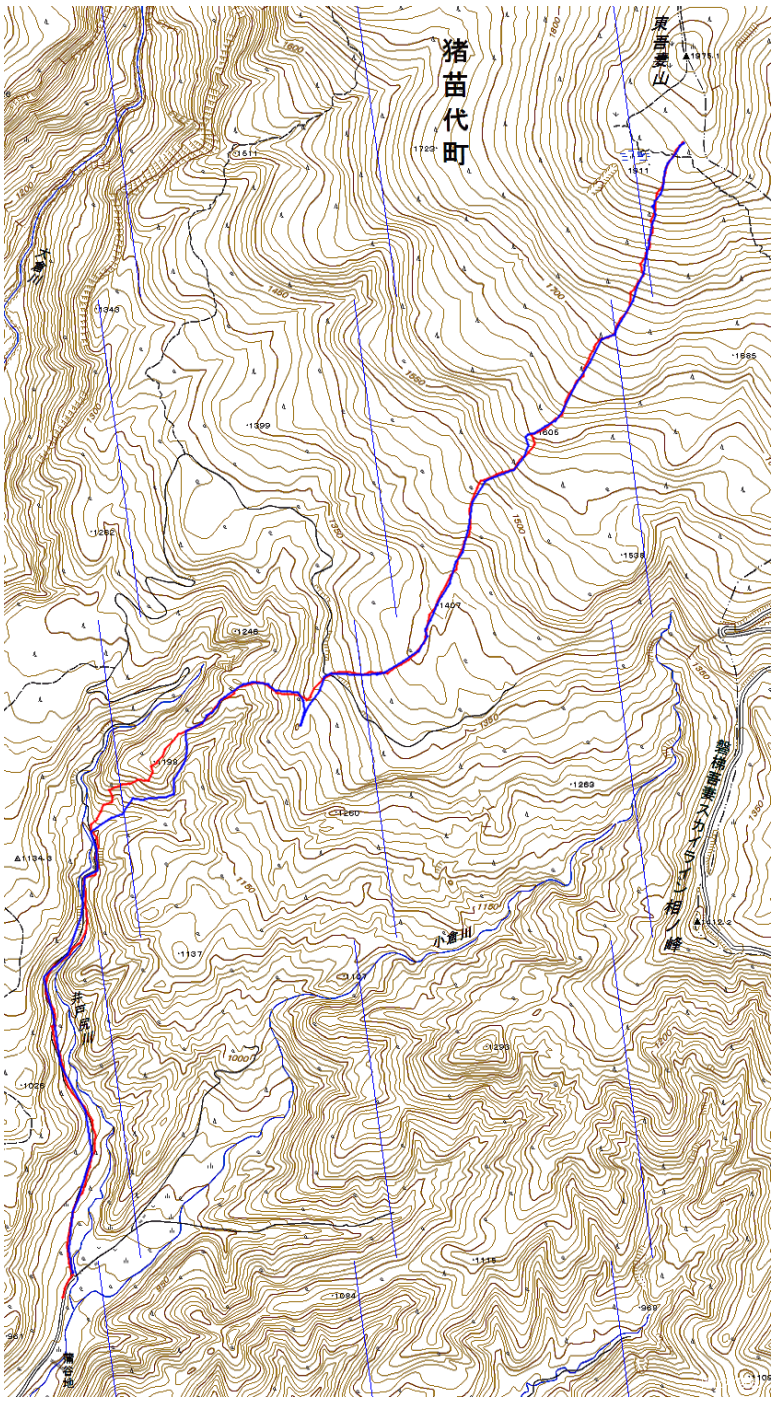
　赤は登り、青は滑降。　　文責：秋葉

山スキー東吾妻（1975.1m）

2019 年３月７日　秋葉信夫、渡辺敏夫、下山田安廣

渡辺さんから東吾妻から蒲谷地へスキーで下ってみたいとの話があった。以前から気になっていたコースでもあるし、スカイラインからは行けないし、先週の赤埴山に行ったときに下山田さんのブーツが壊れ新調したので、その足慣らしも兼ねて出かけた。

　蒲谷地に車を停め、小雪のチラつく中、小倉川林道欅沢支線を歩き始める。幅広い立派な林道である。下山田さんは靴があたり痛いので脱いで履き直す。



950m 付近から尾根に取りつく。1,198m への登りで下山田さんは靴の痛みでリタイア。1,400m 付近からは段々雪が深くなり、交代でラッセルするが一歩々々が沈み込み、疲れることこの上なし。

時折日が差し、時折強風という天気だ。頂上までもう少しの所まで行ったが、帰りに登り返しもあるし、新雪の深雪で滑りに苦労するかも知れないので時間切れ、戻ることにする。

灌木と滑るほどの傾斜がないのでシールを着けたまま戻る。シールを外しいよいよ滑降、ブナの大斜面である。思っていたより雪質が良く、粉雪をかき分け快適に滑ることができた。風の弱いブナの林で昼食とする。

風が強いので登って来たトレースも消えている。広い斜面から尾根に入り登り返すと、ちょっと感じが違うのでGPS で確認する。やっぱり違うので、少し引き返しトラバースして正しい尾根に入る。

登り返すのは嫌になって来て1,198m ピークは巻くことにする。でもこれも結構いやらしかった。程なく林道、のんびりと登山へ。

急なところは無いが、距離が長い、面白いコースでした。蒲谷地から駕籠山稲荷のコースも歩いて見たいと思いました。　　赤は登り、青は滑降。

登り　蒲谷地 7：45→尾根取り付き 8：50→頂上手前 12：50

下り　頂上手前 12：55→滑降 13：10→昼食 13：55～14：10→尾根取り付き 15：00→蒲谷地 15：15

文責：秋葉

神峰山から助川山まで縦走

２０１９年2月２４日（日）　渡辺(美)、芳賀、太

日立アルプスは、電車で登山口まで戻れるため、風神山→高鈴山→鞍掛山と縦走できるのだが、路線バスを使えば御岩神社→高鈴山→助川山（市民の森）でも同様のことができると気づき、計画した。なお、当日は予定を変更（御岩神社参拝をやめて神峰山ピストンを追加）し、向陽台から登ることにした。

まずは、旧本山トンネル脇を通り、日立アルプス・コースの本山峠まで登ると、神峰山(598m)まで往復。神峰山頂上のベンチからの風景は、手前から、大煙突、常磐道、日立市街、太平洋と、山あいの谷間から遠く海まで見通せる、いつ見ても素敵な眺めだ。

次に、ピークハントしながら御岩山(492m)。賀毗礼の峰は御岩山の中心、御神体を拝観してから日立太田市里見方向を展望。岩尾根の上からの眺めは、高さが実感でき、日立アルプス随一だろう。

さらに、ピークを巻きながら、ルート最高点、高鈴山(623m)へ。山頂には、中継アンテナ、展望デッキ、トイレなど、様々な建造物がある。中でも圧巻はやはり気象レーダー、茨城県内の至るところから見えるランドマークである。一等三角点（本点）すぐ近くには、珍しく天測点もある。郡山市の高旗山は四角柱だが、ここの天測点は八角柱。展望デッキからの眺めは、先ほどの神峰山、その向こうに竪破山、花園山など県北の山々、風車の向こうに.県境の山々、西には奥久慈男体山もはっきり。

高鈴山から助川山に下るには、最初は「かみすわ山荘」まで続く林道（舗装道）を 10 分程度歩き、途中から「助川市民の森」への樹林コースに入る。途中、金山百観音あたりで正午になったので、軽く昼食。百観音の祠の周りの石仏は約 70 体とのこと。

なおも下ると突然に視界が開け、池のある芝生広場となる。助川市民の森（おむすび池）である。広い敷地を進むと小高い丘が見えてきた。これが助川山だった。

助川山(328m)は、登ってみると頂上に三角点と小さな山名板、ここからの眺めが素晴らしい。振り返れば、風神山、真弓山、高鈴山、御岩山、神峰山、羽黒山、鞍掛山など日立アルプスの峰々。展望台の四阿からは眼下に日立の市街地、すべてを視界に収め、その先には太平洋が大きく広がる。日立アルプスでは、神峰山ほか、コース末端の風神山(242m)、鞍掛山(248m) からも市街地を望めるが、それよりも数段良い景観。ここで初日を望めたら、どんなにかとも想像される。

暫しの休憩後、日立駅を目指して市街地へ下りて行く。駅前大通りと国道６号が出合うところ（銀行前バス停）で、登山口へ戻るバス路線を確認。東河内行きバスで向陽台（きららの里前バス亭）まで戻った。

コースタイム

８：５５向陽台（駐車場）→9：１０本山峠→９：３０神峰山分岐→９：４０神峰山三角点
→９：４５神峰山(598m)→１０：２０向陽台分岐→１０：４５御岩山(492m) （賀毗礼の峰）
→１１：１５高鈴山(623m)→１２：００金山百観音→１２：４５助川市民の森（おむすび池）
→１３：００助川山→１３：１５セメント索道下→１３：４５「銀行前」バス停１４：１４
→≪日立電鉄バス≫→１４：４０「きららの里前」バス停→１５：００向陽台（駐車場）

（文責：太）

高峯、仏頂山ピストン

２０１９年3月3日（日）　志尾崎、西、山縣、二瓶、斎藤、太

２月２４日の「雨巻山」周回に続き、女性会員中心に２週連続で、ヤマケイ分県登山ガイドに紹介されている、「常陸国風土記」の波大岡（はだのおか）の山並み（茨城・栃木県境）に挑戦。今回は高峯（平沢峠）から仏頂山をピストン。

午前９時頃に平沢峠第二展望台下の駐車場に到着。高峯登山口付近を予定していたが、スペースが埋まっていたので、少し広い、こちらに駐車。仮設トイレもあるが、あまり手入れされていないようだ。

展望台脇のマウンテンバイクのコースと近接、並行したコースを登っていく。樹林の中、デッキのような箇所を通ったり、ジャンプ台の脇を通ったりして、少しずつ高度を上げていく。曇天だったが、パラグライダー離陸場など視界の開ける場所に出ると、笠間市方向の平地の向こうに吾国山などが望める。

高峯（520m）頂上に着くと、ベンチで少々休憩。その後は、稜線を歩いて、奈良駄峠に階段を下りていく。奈良駄峠は薄暗く、切通しのある、いかにも峠といった趣きのある場所で、「関東ふれあいの道」の石碑が建っている。ここからの登り返しも急な階段で、ピーク（398m）を過ぎて、北側に広がる伐採地跡望む階段を下る頃には、雨がポツリポツリ。

最後に長い階段を登りきると仏頂山（431m）の頂上。テーブルとベンチはあるが、周りの木々で展望はない。暫しの休憩度、少し急ぎながら下山。天候が思わしくないことから、予定を変更して楞厳寺に下ることも考えたが、時折の小雨にあいながらも、全員で平沢峠まで戻ることができた。

コースタイム
９：１０駐車場→９：５０パラグライダー離陸場→１０：００高峯山頂→１０：４０奈良駄峠→１１：４０仏頂山→１３：５０駐車場

（文責：太）

スキー合宿（新潟県妙高高原エリア）

2019 年 3 月 10 日(日)～13 日（水） 3 泊 4 日

参加者　秋葉信夫、下山田、渡辺、馬場、伊藤、山内、浅野、秋葉幸夫　8 名

1日目(3/10)日

北陸道から上信越道を経て、昼前に妙高高原池の平スキー場に到着する。絶好のスキー日和だ。昼食を済ませ、リフト最上部からの滑りを開始した。ところがアイスバーンと湿雪が入り混じり快適な滑降は無理だ。明日からの山スキーに備えて今日はレッスン日とする。

滑りだしの姿勢、斜滑降からの山回り・谷回り、横滑りなどを練習し、荷重、角付、回旋を理解する為のターンを雪上でトレーニングした。併せて内倒・ローテーション・後傾などの悪い癖を直すための特訓も実施した。最後に 2.5 キロのロングコースを下までノンストップで滑り下りた。足がパンパンになったところで合宿の拠点となる「国立妙高青少年自然の家」に戻る。

2日目(3/11) 月

ここは、宿泊目的を申請した上で利用許可が下りる条件付きの研修施設だ。小中学生が多く礼儀正しい。本日は一日中雨の予報で、外での活動は無理なので研修日とする。こんなこともあろうと思って持ち込んだスキー技術のマニュアルや DVD を活用して、全日本トップスキーヤーの技術を学んだり、すでに皆さんに渡してある「バックカントリースキーテクニック」と「北海道の山スキー」をテキストに学習し、明日からの滑りへの準備を整えた。

午後はルートガイドアプリ「Geographica」で、前山まで往復のマーカー登録と、ルート案内を入力し、道迷いの無いよう何度も何度も使い方の研修会を実施した。

3日目(3/12) 火

本日はいよいよ妙高山の外輪山「前山 1932m」へのスキーツアーに挑戦する。赤倉温泉スキー場のリフト2本を乗り継ぎ 1490m の地点でシールを張り付け、登行をスタートする。美しいぶなやダケカンバの林の中、快調に足を動かす。最初は直登出来たが徐々に斜度が増し、キックターンを繰り返しながらの電光形で登る。昨日の研修でも納得した筈だが、着地が完全でないと後ろに戻される。薄曇りの中、一気に汗が噴き出る。

前山に向けてシール登行

前山 1832m 頂上にて

尾根を登るのでトップから後尾の人までそれぞれが懸命に登っている姿が見てとれる。途中で休んでいるメンバーは一人もいないが徐々に差が開いてくる。頂上には一番若い伊藤さんが2時間で到着、私は4番目で 2 時間 30 分かかった。そこで信夫に「頂上まではあとどのくらいかかる？」 と聞いたら「ここが頂上だよ」と言われ一安心。目の前に妙高山が美しく輝いていた。後続メンバーが到着する前に妙高山は雲に隠れてしまったが・・・。

小休止の後昼飯も取らず、頂上を後にしていよいよドロップイン。頂上直下は急な狭い尾根なのでギルランテで慎重に下り始める。まもなく快適なツリーランとなる。雪質もまずまず。サイコーとかヤッホーとか声をあげながら一気に滑り降りる。30分で登行点に到着。山スキーならではの醍醐味を味わった本日のツアーであった。

１４：００頃、ゲレンデ内で遅いランチをとり、さらに夕方まで滑りを楽しんだ妙高の３日目でした。

山スキートップレベルの信夫

福岡から参加の山内さん

若さで飛ばす伊藤さん

安全運転の馬場さん

経験豊富な渡辺さん

たまにはこんなことも

４日目（3/13）水　最終日

今日はフリー滑走日とする予定であったが、皆さんのご希望によりゲレンデでの重点レッスン日とする。天候はこれまでで最高の日となったが、雪質は重いので、悪雪克服の練習にいい条件だ。

浅野さんからスキー技術で最も重要なプルーク・シュテムからのパラレルへの展開、ポジション、荷重ポイントなどについてレッスンを受ける。

私からは山スキーで役に立つ直滑降からの急停止、ポンピングター ン、横滑りとギルランテ、急斜面滑降の際のターンのきっかけ、そして最後にどんな悪雪でもクリアーする為のベンディングターンなどの練習を、林の中に入り込んで訓練を重ね、12:00 に妙高赤倉温泉スキー場を後にした。

最終日赤倉スノーエリア・バック妙高山

山スキー特訓と称してスタートした遠征してのスキー合宿も今回で8年目を迎えた。この間石城山岳会の活動も目覚ましいものがあり会員数も50名を超え、スキー愛好者も増加している事は喜ばしい限りである。

最後にフォーメーションで美しく終了

青少年の為の施設の中で、高齢者が利用する事に躊躇していたが、最終日に管理者から「石城山岳会のホームページを覗かせて頂いたら、立派な活動をされておることを確認しました」と言われ、全員晴れ晴れとした気持ちで帰路についた。

（文責・ 会友 秋葉幸夫）

袋田滝周回（生瀬富士・月居山）

２０１９年3月１６日（日） 太

袋田滝の両側にそびえる岩壁から見下ろしたらどんな風景だろう、また、滝の上流はどんな場所だろうと子供の頃から気になっていたが、今回、実際に歩いてきた。

町営駐車場で車中泊し、軽い朝食後に行動開始、登山口に向かう。沢を右に見ながら樹林を歩き、尾根に取り付くあたりは伐採、植林地。そこを過ぎると雑木林になり、傾斜が増してゆく。唐突に岩壁が現れ、その右側をクサリで登る。岩を過ぎ、登り切ったところが生瀬富士の頂上。眼下に袋田温泉が広がり、その向こうには奥久慈男体山に連なる峰々が大きく望める。岩峰の上の天然の展望台だ。

休憩後、急斜面をロープに助けられながら鞍部まで下り、登り返すと立神山。冬枯れの木立を透かして周りの山々が伺える。

立神山を過ぎ、岩峰を越え、痩せ尾根の林を歩き、ロープのある急斜面を下りてゆくと、四差路。案内板には「かずま」とある。直進し、袋田滝の、ちょうど真上、絶景ポイントに至る。崖っぷちから覗き込むとかなり下に滝の全体が見える。良い眺めだが、少し怖いものがある。道をさらに下っていくと、渡渉点。岩が川床から頭をのぞかせている。飛び石の上を歩くように、靴を濡らすことなく渡れた。

月居山に向かう途中、生瀬滝へ寄ってみた。途中、道が所々崩れ落ちており、何度か急な斜面を上や下に迂回、苦労して滝の下までたどり着く。下流の袋田滝に似た雰囲気もがあがるが、渓谷の中静かな場所である、素敵な場所をしばし独り占め。

月居山ルートに戻り、登っていくと、コンクリートで整備された自然研究路に合流する。階段の道を登り切ると月居山北嶺に至る。生瀬富士、立神山が目の前に、足下には袋田温泉が眺められる。

北嶺を下り切ると月居峠だが、その少し手前に徳川斉昭の歌碑、月居観音堂、鐘撞堂がある。さっと見ながら下り、峠を登り返すと、月居山南嶺に到着。頂上はちょっとした広場になっている。月居山城跡を示す、石碑と標柱がある。あまり眺望はない。峠に戻って滝方向に下り、茶店の脇を通って駐車場に戻った。

コースタイム
７：２５町営第一無料駐車場→７：３２登山口→８：３０生瀬富士山頂→９：０１立神山山頂
→９：３３四差路（かずま）→１０：００渡渉点→１０：１１生瀬滝分岐→１０：２１生瀬滝
→１０：３３生瀬滝分岐→自然研究路出合→１１：０７月居山北嶺→１１：２７徳川斉昭歌碑
→１１：２９月居観音→１１：３３鐘撞堂→１１：３６月居峠→１１：５０月居城跡（月居山南嶺）
→１２：10 月居峠→１２：１３温泉分岐→１２：３１茶店（三六亭）→１２：４６町営第一無料駐車場

（文責：太）